

# 未来の柏の図書館像を考えるワークショップ 第2回 ストーリーづくりワークショップ 開催報告

---

柏市教育委員会

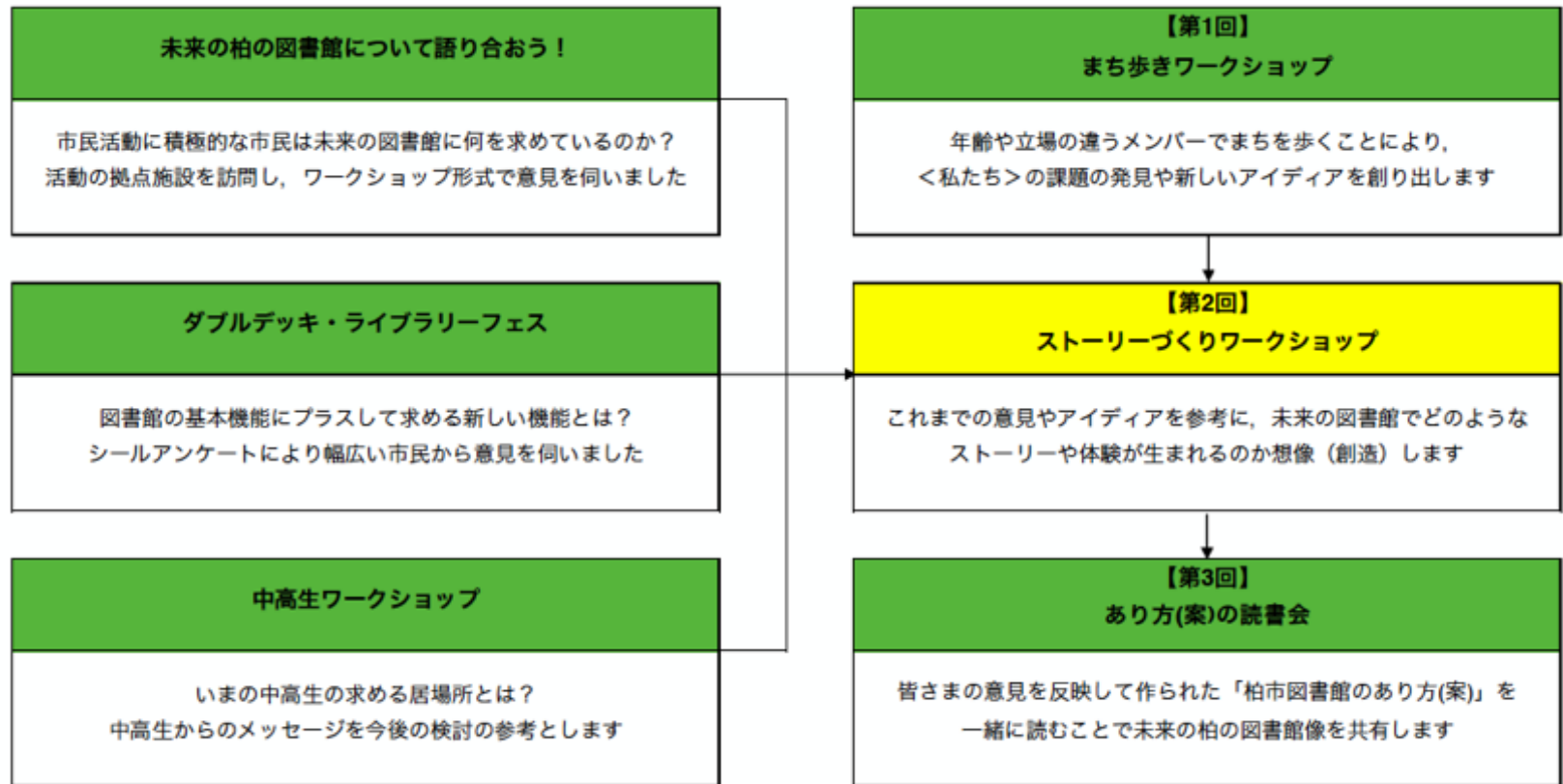
アカデミック・リソース・ガイド株式会社 (ARG)

# 開催概要

---

(日 時)	2018年11月11日（日） 14:00～16:00
(場 所)	アミュゼ柏
(参加者)	11名
(事務局)	生涯学習部 中山次長 生涯学習課 高村課長、橋本副参事、柳川副主幹、川本主任 図書館 小池館長、利光副主幹、後藤副主幹 アカデミック・リソース・ガイド株式会社 岡本、宮田
(プログラム)	(1) オリエンテーション・前回の振り返り（20分） (2) ストーリーづくり（30分） (3) ストーリー選び・発表準備（30分） (4) 発表・まとめ（20分）

# 未来の柏の図書館像を考える ワークショップのつながり



# ①オリエンテーション・前回の振り返り

オリエンテーションに続いて、まち歩きの参加者から、新たな参加者に前回のグループワークで出た気づきを共有しました

## (前回のワークショップで出た気づき)

- 柏駅の周辺にはすでに、子どもも大人も学べる場所やサードプレイスと言われる場所があるのではないか
- 将棋等ができる場所もあり、シニア世代はそういった場所にいるのではないか
- 若者は予備校に收容されているのか
- 新しくできたマンションには子ども達もいるはずだが、まちなかでは見かけない
- 今回発見したような、点と点を見える化してつなげる工夫が必要ではないか
- 空きスペースの活用には様々な可能性があるのではないか
- 多世代の交流を拒んでいるものは何か
- 参加のハードルの低い「集える場」と「つながる場」が必要ではないか



## ②オリエンテーション・今回のねらい

---

- 未来の図書館でどんな物語が生まれ、体験ができるのか、具体的に想像(創造)することで、図書館の可能性を共有する
- 次の「4つのテーマ」と「利用者」を設定することにより、「私ごと」だけでなく、「私たちごと」として、未来の図書館について考える
  - ・こんな空間であってほしい
  - ・こんな風に活用したい
  - ・あの人にこう使ってほしい
  - ・この施設によってまちがこう変わってほしい



未来の図書館像を描き出す

## ③ストーリーづくり

- まち歩きで気づいたことをきっかけに、未来の図書館ではどんな物語(ストーリー)が展開されているかを、テーマや登場人物の背景情報とともにストーリーボードに書きだしました

2. ストーリーづくり (30分)  
「図書館から生まれるわたしたちのストーリー」

ポイント!

未来の図書館ではどんな物語が展開されているでしょうか  
1人1つストーリーを考えてみましょう!  
(1つ以上つくれる人は複数つくっても構いません)

No.	名前	性別	年齢	職業	住所

はじめての方も「ストーリーボード」があれば大丈夫!  
(上手な“お話”をつくる必要はありません)



## ④ストーリー選び・発表準備

- 各班ごとに発表するストーリーを2つ選び、発表に向けてさらにアイデアを加えたり、テーマを深めたりするディスカッションが行われました



## ⑤ 発表 A班 - 1 : 30代の子育て中のママのストーリー

---

利用者は30代の子育て中の  
ママ

日々、育児に追われている

いろんな世代が  
年齢を超えて交流できる場所が  
柏には必要ではないか

非日常が感じられる  
インスタ映えするような空間の  
図書館でリフレッシュできる

忙しいしきっかけもないので、  
他の世代の感じていることを  
知ることができる機会がほしい

五感が刺激される場所で  
親子や若者もつい行きたくなる





## ⑤ 発表 A班 - 2 : 市立柏高校に通う女子学生のストーリー

テーマは「この人にこんな風に使ってほしい」で、高校生女子の吹奏楽部員

本だけでなく、楽器も貸してくれるので、いろんな楽器を試せる

部活に熱心に取り組んでいて、もっと上達したいと思っている

演奏用のスタジオも図書館に用意されていて、練習場所としても活用できる

図書館には楽譜や演奏指導などの本があり、吹奏楽団をサポートしている

柏は音楽のまちなので、「一人ひとり楽器演奏できるまちづくり」をすすめては、との意見も出た



# ⑤発表 B班 -1 : 10年後のある4人家族のストーリー

今から10年後、パパ、ママ、娘、  
息子のある4人家族のお話

施設のなかには暖炉のある居心  
地のいい空間があり、そこでは  
自然と周りの人と語り合える

全国初のリゾート型の複合施設  
「手賀ライブラリー・ファウンデーション」  
ができる。この泊まれる図書館に家族で  
出かけることに

デジタルアーカイブには亡く  
なったおじさんのメッセージが保  
存されていて、夜はその声を聞  
いて涙を流したりもした

施設に着くとWi-FiにつながったAI端  
末が渡され、AIコンシェルジュが仕事  
や宿題にアドバイスしてくれる

大変充実した3日間の滞在を終えて  
家族は帰路に着いた



## ⑤発表 B班 -2 : 柏在住の中学3年生のストーリー

利用者は柏在住の中学3年生

ある日、柏の図書館に行ったら  
日本や世界の出版社の人が来て  
商談(ブックフェア)が行われていた

受験を控えていてなんとなく  
憂鬱な毎日を過ごしている

作家さんも来て  
イベントが行われていた

将来は本に関わる仕事に  
関わったらクリエイティブで  
いいなと思っている

本に関する情報にたくさん触れて  
本と関わる仕事について  
もっと知りたくなった



## ⑥ワークショップのまとめ(1)

---

- 五感が重要であること。図書館というと知の殿堂なので論理的に考えがちだが、すべてをロジカルに考えているわけではない。他の文化施設との連携もおもしろいテーマだろう
- 柏市の特徴を生かした音楽に特化した図書館というのも面白い。NYやロンドンには実際に音楽に特化した図書館がある。楽器を貸すなど柏だって可能性がある
- 「手賀沼ライブラリーファウンデーション」構想として語られた泊まれる図書館というアイデアも現実に即したものの。箱根に民間の泊まれる図書館ができるし、各地の図書館でも宿泊企画は人気がある。沼南エリアで提案されている点もポイントで柏市の観光資源を生かしている

## ⑥ワークショップのまとめ(2)

---

- 人生100年時代、多世代交流がこれからの図書館では大きなテーマになる
- アーカイブを考える上で、図書館と関わるのはいま生きている人だけではないということも重要なポイント。未来の子どもたちに自分たちの死後どんなメッセージを残したいか、多世代交流ともつながってくる
- 暖炉が設置されている図書館、落ち着ける施設があることは人を引き付ける重要なポイント
- 多くのストーリーに共通するのは図書館というのはひとが資源だという発想がある

## ⑦未発表ストーリー（学び）

---

- 10代の男子。大学受験に失敗して浪人生。家の経済事情で予備校に行くことができないので、普段は家で勉強しているが、ときどき気分転換もしたいと思っている。自転車で行ける距離に、カフェが併設された図書館があって、100円でコーヒーを飲みながら、本を読んだり、勉強したりできる。図書館に来ると他にも真剣に勉強をしている人がいて、カフェエリアでそういった人たちと話す刺激も受けるし、気分転換もできて、また、頑張ろうと思う
- 中学校の教員。職場の学校は市民センターと同じ建物で、図書室も共通になっている。図書館の司書が、調べ物学習や読書活動をサポートしてくれるのだが、同じ施設なので相談しやすい。図書室で読書だけでなく、工作やプログラミングもできるので、いろんな子どもたちがやってくる
- 柏市内で働いている20代の男性。今の仕事にやりがいを見出せず、転職を考えているが、具体的にやりたいことが見つからない。受験勉強で使っていた図書館に久しぶりに行ってみたら、資格の取得講座や転職セミナーがたくさん開催されていて驚いた。まちづくりや地域の活性化を行うNPOの採用情報が目に入り、思いを巡らせた。テラスから見えるまちの緑を眺めながら、ほっと一息
- 結婚を機に柏に引っ越してきて3年の30代主婦。毎日図書館に通っている。図書館では、料理教室やダンス教室が行われていて、友達に会いに行く感じで通っている。講座が終わったらカフェでランチして本を借りて帰ろうかな、と思っていたら、職員さんに本を勧められて、ついついそこで読んでしまった

## ⑦未発表ストーリー（子ども）

---

- 幼児と若いお父さんとお母さん。休日は親子でまったり過ごしたい。お金のかかる施設に毎週行くのは経済的に無理。図書館に行くと、お父さんは自分の趣味の雑誌や本をチェックしたり、お母さんはママ友同士でおしゃべりしたり、育児本や絵本をチェックできる。そのあいだ子どもはボランティアの中高生たちが、他の子たちと一緒に面倒を見てくれる。その中高生たちも、小さいときに図書館で遊んでもらって楽しかったから、自発的にこのボランティアに参加してくれている
- 子育て世代の40代のパパ。妻に続いて育休を取得して慣れない子育ての毎日。図書館に行くとおはなし会をやっていて、参加してみたら面白かった。自分も読み聞かせに興味が出たので聞いてみると、読み聞かせサークルが図書館で活動していることがわかったので、今度は参加してみようと思う。パパ友もみつきりそう
- 子育て世代の夫婦。誰かに子育ての悩みを相談したいけど、どこも敷居が高くてなかなか気軽にできない。そんな時に図書館に行ったら、子育ての悩みを相談できるスペースがあって、専門知識を持った方にフォローしてもらえた。また、子どもスペースがあって、託児をお願いできたので、子どもを気にすることなく相談に行くことが出来た。サークルに所属したり、公園デビューしたりはハードルが高くて堅苦しいけど、ここなら気軽にまた来れる
- 両親が共働きの小学3年生。図書館は学校の隣にある。学校が終わると図書館に行って宿題をやったり、友達と遊んだり。図書館にはお菓子やお茶があって楽しい。しかも、本を読むのに飽きたら、図書館に設置されてるボルダリングやジップラインを楽しめる！人気でいつも待つけど、それでも好き！

## ⑦未発表ストーリー（多世代・交流・共有）

---

- 平日は朝から夜遅くまで仕事漬けの40代会社員。晴れた休みの日は公園に。雨の日の行き場がなく困っている。そこで、久しぶりに図書館に行った。子供は図書館の本を読んだりし、自分はワーキングスペースでネットや雑誌から情報収集。少し疲れたので図書館で行われているヨガに参加。日頃の疲れが癒される。買い物帰りの妻と合流。地元の会館が戦時中に弾薬庫だったというニュースを聞いたので、図書館でもう少し調べてから帰ろう
- 65歳で雇用延長も終えて晴れて悠々自適の毎日。本好きなので図書館にでかけると、居心地の良い閲覧スペースで心いくまで読書ができる。心が満たされると、まだ誰かの役に立てそうな気がする。情報スペースに行くと、自分にもできそうなボランティア情報が掲示されていた。詳しい話をコーディネーターさんに聞いてみるつもりだ
- 豊四季台団地在住、80代の独り暮らしの女性。足腰も弱って、目も疲れやすくなったけれど、歩いて行ける距離に図書館があって、健康のためにも歩いて出かけていく。目が悪くても、オーディオブックの使い方を職員さんが教えてくれるので、新たな情報得られて、認知症の予防にもなっていると思う。なにより、友だちも図書館に来るので、話し相手もできて寂しくなかった
- インターネットなど情報が多い社会の中で、情報を受け取るばかりでアウトプットする場がないと思っていた。そんな時に図書館に行ったら、学生たちが自分の意見を述べ、学生たちが自分の親世代や祖父母世代の多世代が交流できる機能があった。そこに、子育て中のママ世代も気軽に参加できる仕組みにもなっていて、今まで感じたことが無い「私にも出来る」が味わえる場所だった。それらの機能に加えて、本があることで、本から得る気づきが、考え方やものの見かた変えるきっかけを与えてくれている場になっている



## ⑦未発表ストーリー（創造）

---

- 生まれも育ちも柏の30代後半。大学から柏を離れ現在は都内在住。時々実家に帰省するが柏に愛着はない。子供を連れて久しぶりに実家に帰省した際に久しぶりに柏の図書館に行ってビックリ。広々とした館内に、本が見やすく並び、図書館職員も生き生きとレファレンスしている。子供が草花の本を探していると、職員が色々提案してくれた。おまけに、広場で開催中の自然フェスティバルのガイドも行ってくれた。広場への導線には地元のお店が出店していて、一日中楽しめた。柏に戻ってくるのも良いかな、と少し思えた
- 柏市内の高校に通う2年生。学校の課題で、柏の戦後の歴史を調べて発表することになり、先生に柏駅前の図書館を勧められたので行ってみた。図書館は地域の歴史博物館の機能があって、展示を見ると、戦後の柏の移り変わりや現状が分かった。図書資料は大変充実していて、利用者と資料を繋ぐコミュニケーターというスタッフがいて、調べ学習が捗った
- 市内の中学生。紙の本が少なくなり、一人一台タブレットを持つ時代になった。紙の本が無い電子図書館に行き、世界中の本をタブレットで読むことが出来る。そして、自分のタブレットで作成したものを図書館に置くことが出来る。図書館が、データセンターとしての役割を持つ時代になった
- 図書館に行ったら、夢中で何か調べものをしている人がいる。すごく気になって、ついつい声をかけてしまった。その人は興奮しながら「今、大発見をしたんだ！！」と語りだした。話を聞いていると、とても興味深かったので、みんなの前で発表しては、と提案し、そこから周囲にいた市民と共に即席のレクチャー（講演会）が開催され、その人に大喝采が送られた

# 未来の図書館の利用イメージが広がるストーリーの共有ができました

---

